

味の素グループ：経理AI導入による工数76%削減の軌道と実態

味の素フィナンシャル・ソリューションズ（AFS）における経理AI導入の成果、その成功を支えた30年の歴史、技術的仕組み、および将来の展望を客観的なデータに基づき解説する。



対象業務の工数を76%削減

味の素グループ内1社における「経費精算率認業務」での業績値



年間約1万時間の創出を期待

「月1万件の処理 × 1件3分」計算に基づく公式期待効果

成功の礎：30年以上にわたる標準化の歴史



LLMベース「経理AIエージェント」の技術的仕組み



承認判断の正答率

93.3%

(経理程化ロジックと社内規程学習により向上)

1. AI-OCRと証憑データの照合

領収書などの証憑画像をAI-OCRで読み取り、申請データとインボイス割産への準拠状況を自動で突き合わせます。

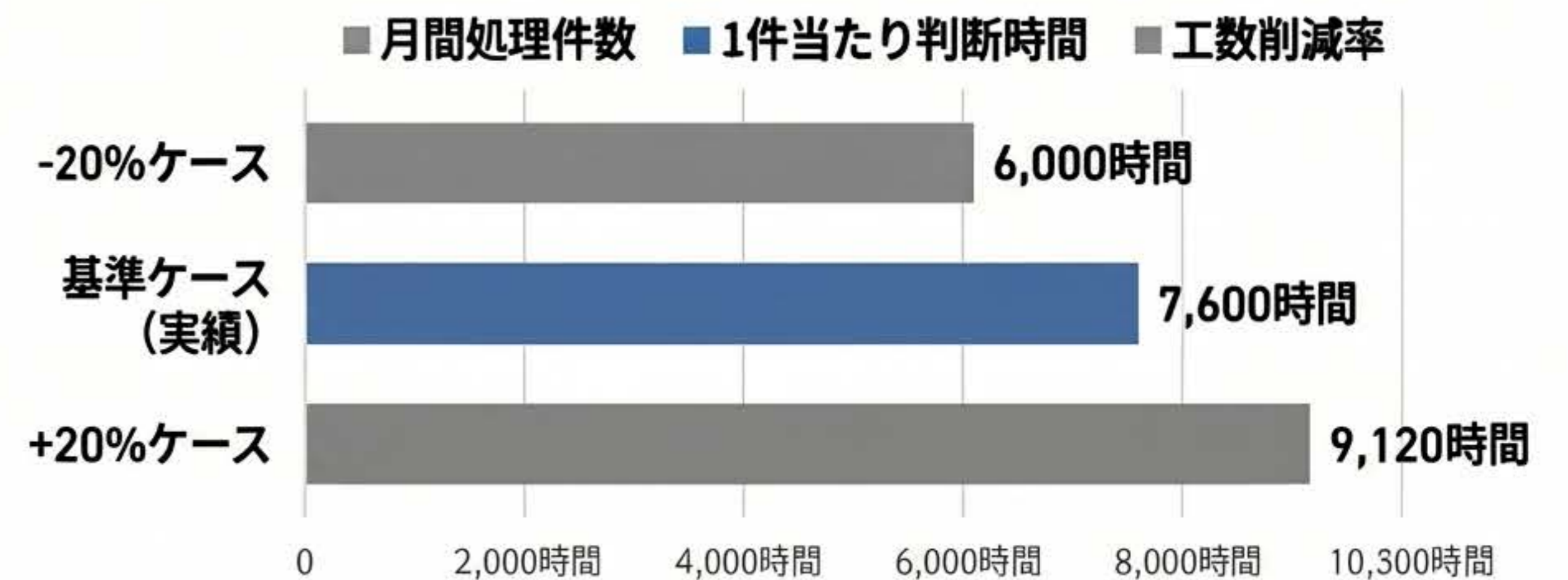
2. 社内規程に基づいた自動判定

単なる生成AIではなく、独自の社内規程や運用ルールを学習させることで、「承認・差し戻し」の判断を自動化します。

3. AI一次判定 + 人による統制監督

AIが全件を一次判定し、人間は事後のサンプルチェックや例外処理に注力する「完全無人化ではない」運用体制を敷いています。

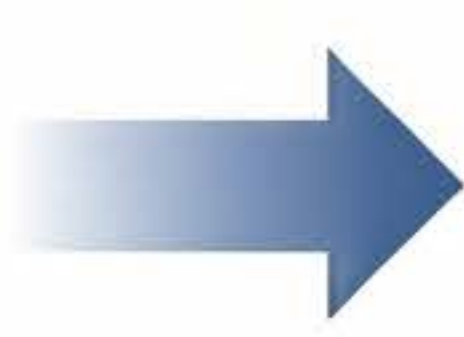
創出される削減時間の変動要因を可視化（感度分析）



次のステージ：経理部門の役割変革とガバナンス

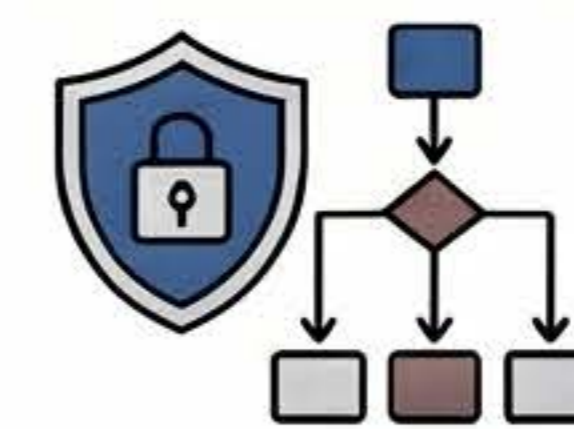


処理部門：処理中心



事業支援部門：付加価値創出

AIで生み出した時間を、管理会計や業務コンサルティングなど、より付加価値の高い領域へシフトさせることを目指しています。



ガバナンスとリスク管理の高度化：ハルシネーション（誤判定）リスクに対し、制約付きワークフローや監査ログの保持、Steward規約に基づく利用責任の明確化を行っています。